

民生都市建設委員会行政視察

●出席委員／下垣内委員長 今田副委員長 蕎麦田委員

●日 程／5月27日～29日

●障がい者千五百人雇用事業について 《岡山県総社市》

岡山県総社市が推進する「障がい者千五百人雇用事業」について、行政視察を実施しました。本事業は、障がいのある方が働き、生きがいを持って安心して暮らせる地域社会の実現を目的に開始されたものであり、条例制定、企業支援、就労支援体制の整備など、全国的にも先進的な取組として注目されています。

総社市では、平成30年に「障がい者千人雇用推進条例」を制定し、数値目標を明確に掲げることで、市民や企業に対し、障がい者雇用の重要性を強く発信しています。条例制定後は、企業の理解促進や雇用意欲の向上が顕著であり、行政・企業・福祉団体が一体となった支援体制が構築されたとの説明がありました。

総社市の取組は、障がい者雇用を福祉政策にとどめず、産業政策、地域活性化政策として位置づけ、数値目標と伴走支援を組み合わせる実効性を高めている点が特徴です。障がい者が地域の一員として活躍できる環境づくりを進める上で、多くの示唆を得る視察となりました。

●森林環境譲与税の活用について 《岡山県新見市》

新見市は、森林ビジョンを策定され、「森林資源の循環利用による林業の成長産業化の実現」のため、次の取組をされています。

①森林整備では、間伐や主伐、再造林による齢級構成の平準化などにより、多様で健全な森林環境の保全・創出を図り、森林境界の明確化をはじめ、ICT技術や高性能林業機械等の活用によるスマート林業の取組を推進されています。

②木材利活用では、森林資源の循環利用を促進するため、公共建築物等の木造・木質化、未利用材等の木質バイオマスの利用促進、広葉樹資源の利用促進などにより、新見産材の需要拡大を図られています。

③担い手策では、補助金などを整備され、林業の魅力発信等による新規林業就農者の確保、森林教育や新見産材を使用した木育の推進による市民意識の醸成などにより、新見市の林業を担う人材の確保・育成を図られています。

本市においても、新見市の取組を参考にしながらも、生活道沿いの古木の整理など、市民生活向上のための取組をできることから始めていくことが大切だと思います。



●住民主体のまちづくり事業について 《岡山県美咲町》

住民主体のまちづくりの取組と成果が注目されている岡山県美咲町を視察しました。美咲町は岡山県の中央部に位置し、人口12,000人ほどの町です。美咲町の町政運営の基本方針は地域の強みを改めて見つめ直し、人と人との繋がりを深め、知恵と工夫によって新たな価値を創り出すために賢く挑戦することです。

目指すものは、子どもから高齢者まで誰もが安心して自分らしく暮らし続けられる町、若い世代が希望をもって働き、安心して子育てができる町、高齢者が生きがいを持ち地域の担い手として活躍できる町とのことです。その目標の実現のために始めたのが町民主体のまちづくり「小規模多機能自治活動」です。

町を13の地域にエリア設定し、それぞれに「まちづくり協議会」を設立して、住民が積極的にまちづくりに関与し、まちづくりを推進しています。

地域課題の洗い出し、住民参画意識の醸成、未来計画の策定などで「自分たちの未来が明るいものになるよう取組を進めることを心がけている」とのこと、竹原市において学べき事柄が多くあると感じられた視察となりました。

